

平成 26 年度行政評価（外部評価）議事要旨

議 事 概 要	
会議の名称	平成 26 年度行政評価（外部評価） ※図書館運営業務
開催日時	平成 26 年 12 月 6 日（土）午後 1 時 45 分から午後 2 時 45 分まで
開催場所	市役所北庁舎 2 階第 5 会議室
出席者氏名	委員 和泉 潤 委員 塚田 敏彦 委員 高野 晃二 委員 島田 智子 委員 荒川 敬子 担当課 教育部長 川本 忠 教育部次長 加藤 明 中央図書館長補佐兼図書係長 二之部 香奈子 中央図書館専門員 水野 香織 事務局 行政経営部長 松井 豊明 行政経営部次長 三浦 肇 経営管理課長補佐 門前 健 経営管理課主事 清水 裕穂
傍聴者人数	6 人
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	図書館運営業務について
問 合 先	長久手市行政経営部経営管理課 0561-56-0600
備 考	

担当課	<p><平成 26 年度長久手市行政評価（外部評価）資料に沿って説明></p> <p>個人貸出冊数が平成 20 年をピークに減っているが、現状はどのようか。</p> <p>平成 20 年 10 月に日進市図書館の新館が開館した。それまでは日進市に在住する方が広域的に長久手中央図書館に登録していたが、日進市図書館の開館に合わせて平成 20 年度から平成 21 年度にかけて本館への日進市在住の登録者が 64% 減った。日進市以外の地区の登録者はそれほど減ってはいない。名東区については、ほぼ横ばい。</p> <p>個人貸出冊数が全国で 8 位、9 位であったという統計は長久手市民</p>
委員	
担当課	
会長	

担当課
委員

だけではなく、広域登録している人も含めた数字か。

広域登録している人に貸出ししている冊数も含まれる。

市民一人当たりの年間貸出冊数について、全国で見るとここ3年間は上がっているようだが、長久手市は下がっている。この要因はなにか。

担当課
委員

全国については、平成24年と平成25年は横ばいだが、近隣市は下がっている状況である。要因は特に思い当たらない。

これが母数の関係で下がっているのであれば、それを説明して欲しい。

担当課
委員

長久手市は子ども読書活動推進計画の策定が近隣の市町村より遅くなった。現在は子どもの貸出率が上がるように努力している。

それはこれからの話になると思うが、これまでのことを教えてほしい。

担当課
委員

全国平均は上がっているが、世間では活字離れが問題となっている。しかし、全国平均は上がっており、近隣は下がっている状況であるため要因を特定することは難しい。年齢別でどの世代が下がっているか調査することが必要と考える。

図書館は市民のためのものであるので、広い範囲の市民に利用してもらいたいと思うが、年末や夏休みに貸出点数を上げて、利用している人がその時期にさらに利用しているだけであって、普段利用していない方に利用してもらうことにはならないのではないかと。貸出点数を上げるだけなら、一人当たりの点数を上げれば目標を達成することが出来るが、多くの人に利用していただくことが重要なのではないかと。

担当課
委員
担当課

子ども読書活動推進計画の事業である、館外ブックポスト返却を11月20日から始めている。中央図書館から遠い地区の方にもお住まいの近くで本が返せるという事業である。また、児童館連携として中央図書館から遠い児童館に、図書館で人気のある本の団体貸出を行っている。学校貸出についても、平成20年度から行っており、市内全ての小学校に行き届いている状況である。

児童館から個人が貸出することはできるのか。

貸出して、自宅まで持って帰ることが出来る。

委員	さきほどの説明では、個人貸出と団体貸出は別であると聞いたが、団体貸出先から個人が借りても統計上は個人貸出に含まれないということでしょうか。
担当課	個人貸出には含まれない。
委員	日頃からよくお世話になっている。図書館に行くと、本を読むスペースでいつも同じ方が寝ている。高齢者の方に多いが、本来の利用目的ではない方もいると思われる。本を読みに来た方が使えないので、何か対策をしていただきたい。
担当課	他の図書館に比べると、本の在庫が少ないように思われる。鶴舞や千種の図書館の本を中央図書館で借りることが出来ると聞いたが、ある美術書を借りようとしたところ、貸出できないと言われた。
担当課	限られた席を利用させていただくことになるが、他の皆様に明らかに迷惑となってしまう行為については、職員で対応している。
委員	愛知県内の全ての公共図書館で相互貸借ができる環境が整っている。高額、貴重な本は貸出できないと断られる場合もあり、その判断も図書館による。
委員	今は成果目標が一人当たりの貸出点数となっているが、利用者の裾野が広がっているのかどうかの確認も必要だと思う。図書館の利用登録カードがあるので、延べ人数ではなく実質人数を確認することが可能だと思う。
担当課	図書館の実利用者数という統計データがある。2012年現在で実利用者数が登録いただいた方の30%ほどになっている。
委員	登録者は長久手市民以外も含めた人数か。
担当課	広域の登録の人も含めている。
委員	長久手市民の利用者の裾野が広がっているかどうかはわからないということか。
担当課	この統計データからはわからない。
委員	満足度の調査について、サービス、本など様々な満足度があると思うが、何についての満足度か教えてほしい。
担当課	利用者アンケートを実施し、満足度を調査しているが、総合的に見た満足度として調査している。
委員	成果指標に予約件数とあり、予約件数が満足度の指標と考えるとあ

るが、予約というのは読みたい本がなかった場合にすることで、満足度の指標というより不満足度の指標であると考えている。予約件数の増加が満足度上昇につながるのかという疑問がある。

他の図書館との連携が進んでいるという話があったが、公立の大学とは連携が進んでいると思うが、長久手市周辺にある私学の大学とも連携を進めてほしい。検討はしているか。

担当課

言われたとおり、満足度の指標にはならないと考える。ベストセラーの本ほど予約が集中する。ベストセラーの本は、本の発売前に予約でき、長久手市在住、在学、在勤の方が優先的に予約できる。リクエスト制度は、過去に発売されたものも含めて、中央図書館にないものをリクエストするものであり、リクエストは利用者要望を叶える手段となる。

学校との連携については、愛知県図書館が主体となって県内の公共図書館への定期便が巡回で来ている。その中に地元の大学が参加していないという実情がある。愛知県立大学と愛知医科大学については、長久手市民に貸出しをすることが出来るが、愛知淑徳大学や椋山女学園大学との定期便を巡回させることは難しいのが現状である。ただ、紹介状を記入すれば、愛知淑徳大学で閲覧はできる。

委員

アンケートで満足度を調査し、8割満足という結果があるが、逆に2割の方は不満である。その2割の方がどういった不満を持っているかを把握しないと次につながらない。満足よりも不満の意見をうまく把握できるようなアンケートにしなければならない。

成果目標について、全国平均値よりも高い実績であるため、前年度並みを目指しているところがあるが、全国平均値よりも高ければよいのかという疑問がある。市は市で市民の方にこれだけ読んでもらいたいという目標があると思う。そういった目標にしなければ、目標値に達したからそれでよいという安易な考えに陥ってしまう可能性もある。目標は高い方がよい。そのためには、長久手市として、どういった本をどういった方に読んでもらいたいのかという方向性を決めなくてはいけない。方向性については、図書館の中で議論されているのか。

担当課

個人貸出件数が年々下がっていることは課題である。平成25年度に子ども読書活動推進計画が出来たので、児童書を重点的に充実させ

	<p>るよう努めている。高齢者サービスや障がい者サービスをボランティアと一緒に検討することが必要だと考えている。</p>
委員	<p>全体としては貸出点数が下がっているが、児童書に関しては、年齢別の統計データを見ると平成24年度から平成25年度にかけて貸出点数が上がっている。</p> <p>図書館として目指しているものがあると思う。その目標に向かってこういったことを行ったからこういった効果や数字がでたという目標にしたらいと思う。年間貸出冊数は毎年下がっているが、開館時間を延ばしたり、図書館が努力をしている面もあると思う。その中身が分かるような指標の設定をし、効果が分かりやすいものがよい。</p>
担当課	<p>今までは貸出冊数の全国平均や近隣の平均を指標としていたが、全国平均より冊数が多いからA評価ではなく、長久手市として力を入れたい年代、分野などを設定し、指標の検討を行いたい。また、活字離れの対策も考えていきたいと思う。</p>
委員	<p>貸出冊数が下がっている理由が分かれば、その対策をすることが出来るので重要である。</p>
委員	<p>CD、DVD資料の貸出点数はどのようなか。この数字を見れば、活字離れが原因か、単純に図書館に足を運ばなくなったのかが分かるのでは。</p>
担当課	<p>CD、DVD資料の貸出点数も下がっている。</p>
委員	<p>図書館に足を運ばなくなっている可能性がある。</p>
委員	<p>DVDについて、圧倒的に数が少ないと思う。ただ、図書館とレンタルショップは別物であるので、レンタルショップのように品揃えする必要はないと思う。図書館の方針を教えてほしい。</p>
担当課	<p>日本図書館協会がDVDの販売を始めて、DVDを貸出することが出来るようになった。DVDの図書館向けの販売価格がかなり上がっている状況である。ビデオテープからDVDへの買い替えを行っているが、ビデオテープよりDVDが高額のため、開館当時のビデオテープの本数よりどうしても少ないという状況が続いている。</p> <p>DVDの内容としては、レンタルショップでは置いていない、知識教養の分野について中心に選んでいる。</p>
委員	<p>開館当時は講師を呼んで大人の読み聞かせというイベントがあっ</p>

担当課

た。

開館当時は図書館講座の中で、読み聞かせの先生を呼んでいたことがあった。ここ4、5年は修理ボランティアがかなり活躍している。この方たちは図書館にとってとても重要であり、修理ボランティアを受け入れるために図書館講座を受けていただく必要がある。現在は読み聞かせより修理ボランティアに重点を置いているため、読み聞かせの図書館講座を開催していない。

委員

修理ボランティアが活躍していると聞いてとてもうれしく思う。まだまだ行き届いていない本もあるので、よろしく願いしたい。

子どもの活字離れが問題となっていくので、子ども向けのイベントも力を入れていただきたい。

委員

本を購入していくといつかはスペースがなくなり、廃棄することになるが、どのような対応をしているか。

担当課

年間で1千万円の図書購入費があり、だいたい1万1千冊の本を購入することが出来る。図書館の収容冊数は20万冊であり、常に利用者の手元にあるのが2万冊となっている。現在図書館は約22万冊保有しているが、閉架の書棚は若干余裕がある状況である。ただし、本は循環させなくてはならないため、1万1千冊の本を購入するのに対して、年1回の蔵書点検で5千冊の除籍作業を行っている。除籍対象となった本については、リサイクル市で一般市民の方に無料配布している。リサイクル市で余った本については、定期的に雑誌と一緒に市民に提供している。現状のシステムではごみとしてでる本はない。

委員

除籍した本の処分については、問題になることだと思う。そのようにごみとまらないシステムはよいことである。

視覚障がい者の点字図書についての対応はどのようなか。

担当課

名古屋市で行われているボランティアによる点字図書の作成は、長久手市では現在行われていない。点字図書については、専門的な知識が必要なため、育成が必要である。愛知県や名古屋市には何万冊と点字図書を所有しているので、希望があればそちらを紹介している。

委員

視覚障がい者が点字図書を希望しても特に問題なく対応できているということによろしいか。

担当課

特に問題ない。

委員
担当課

分野ごとのアンケートはあるか。

利用者アンケートに資料収集の希望分野という項目がある。第1位が小説・文学、第2位趣味・娯楽、第3位実用書、雑誌、教養関係、AV資料、政治経済・ビジネス、児童書と続く。

委員

このアンケートに基づいて、年間1万1千冊の購入する本を選定しているのか。

担当課
委員

リクエストに応じて何冊か同じ本を購入することもある。

本の選定は苦勞されると思うが、アンケートの内容を工夫して行っていただきたい。年代別で把握し、特に児童書などに反映できると良いと思う。

担当課

学校連携事業を進めている。中央図書館から市内の小中学校に司書を派遣している。学校連携司書は市内の小中学校で人気のある本など、学校での利用状況を把握する一方、中央図書館においても小中学生に人気のある本の状況が把握できる。その両方の傾向が中央図書館で反映されている。

委員

活字離れといわれているが、一方でおもしろい本が少なくなっているのではという考えもある。例えば、昔より何度も借りられるような人気のある本が少なくなってきたのではないか。我々が本を読む場合はマスメディアの影響が多いと思うが、長久手の図書館が発掘したベストセラーなど本をPRしていく場があると良いと思う。

担当課

図書館年報を発行しているが、その中にベストリーダーというページがある。一般的にベストセラーとなった本がランクインすることがほとんどである。乳幼児向けの絵本については、長久手の司書が選んだ本がランクインしており、近隣の市町とは違う傾向が出ている。

委員

ぜひ大人の本のランキングでもそのようになると良いと思う。

図書館年報は一般の人でも入手することが可能か。

担当課

図書館のホームページに掲載しているので、誰でも見ることが可能である。

委員

ホームページを見られない人もいると思うので、司書が選定した本を広報などでPRするのも良いと思う。

会長

図書館の評価の方法はたくさんあると思うが、定量的な評価だけではなく、定性的な評価も必要である。また、良い結果だけを見るのではなく、悪い結果にも着目し、どのように課題を解決していくかを検討する必要がある。